

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 13 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870201120		
法人名	社会福祉法人今治市社会福祉協議会		
事業所名	今治市社協グループホームゆいの家		
所在地	愛媛県今治市大三島町野々江2435番地1 (電話) 0897-74-1320		
管理者	渡辺 ミカ子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 9 月 13 日	評価確定日	平成 19 年 11 月 15 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 17 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤 4 人, 非常勤 19 人, 常勤換算 7.8 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 17 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護 1	10 名	要介護 2	2 名
要介護 3	4 名	要介護 4	名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	なし	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然環境に恵まれた場所に建ち、社協の支部、保健センター、福祉センターが隣接する町の福祉の拠点である。地域とのつながりを大切にしており、地域行事にも積極的に参加したり、地域の方からも野菜などをいただいたりしたりと密接な関係を築きあげている。また職員の異動もほとんどなく、利用者の意向を尊重するということが職員全体の中で意識統一されている。日常生活の中で利用者が食事の手伝いや片付け、洗濯物の片付けなどを職員と一緒にしている姿がよく見られ、利用者職員が一緒になってホームでの生活を盛り上げているように感じられる。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価結果で運営理念の啓発や介護計画の見直しなどの改善課題を挙げられたが、それぞれの項目で管理者、職員が検討を行い、地域の人を交えての講演会をホーム主催で開催するなどしている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価は職員一人一人が気になった項目に関して記入していき、それを管理者がまとめている。職員は自己評価をすることにより自分を見直すことにつながっていると実感している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

定期的で開催されており、ホーム内での課題等について話し合いがもたれている。会議では、運営面の問題だけでなくホーム内の問題なども取り上げて意見交換が行われており、サービスの向上に繋がるような仕組みができています。また地域活動に参加する機会も徐々に増えており、会議で出された意見から地域に向けたホーム主催の認知症に関する講演会を開催し、多くの住民等が参加した。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の来訪時には必ず声をかけ、利用者の様子を伝えるようにしている。また日常において気になるようなことがあれば電話等で相談するなどして、できる限り家族の意見を運営に生かすようにしている。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

デイサービスに出かけ、地域の人と自由な交流ができるようにしている。デイサービスに来ている人がホームに遊びに来ることもある。また地域の方から毎日のように野菜などを頂き、食材として活用している。近くにある学校のスポーツ大会に利用者の作った千羽鶴を届けてとても喜ばれており、今後も続けていく予定である。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 今治市社協グループホームゆいの家

(ユニット名) ゆいの家1

記入者(管理者)
氏名 渡辺 ミカ子

評価完了日 平成 19 年 8 月 17 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) ①1人1人がその人らしく生活が出来るためにその人をよく知る。地域の人との触れ合いがある。そんなふつうの生活を支援します。②身体機能の維持に努めます。8月が見直しの時期であった為、このことを指針として掲げます。 (外部評価) 職員全員で検討し作成した2つの理念を掲げ、利用者のごく普通の生活をそれぞれのペースで送ってもらおうということを職員間でも意識統一できている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を皆で考えて掲げ、1人1人利用者様に会った対応が出来ているか、皆で確認し共有している。 (外部評価) 平成19年8月に理念の見直しを行い、ミーティング時には理念についての話し合いも行っている。まず身近な小さなことから理念の実践を進めていくように心がけている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 玄関の見やすい所に大きく掲示しているので、家族様や地域の方達の来所時に読んでもらって理解を得ている。お便りにて家族様等へのお知らせをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 地域、近所の方が毎日のように野菜や家で収穫した果物等届けて下さっている。地域のボランティアさんも含め、行事にはご案内をして参加をしてもらっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の行事にはほぼ参加している。毎年地域のボランティアで行う、7草がゆ、ぜんざいのお接待等に招待を受け参加している。保育園児、高校生、中学生との交流を定期的に行っている。 (外部評価) 自治会等には加入していないが、地域から行事の誘いもありほぼ参加している。また近所の人などが毎日のように野菜などを届けてくれたりしている。また保育園、中学校、高校などとも定期的に交流を行っている。近くにある学校のスポーツ大会に利用者の作った千羽鶴を届けてとても喜ばれている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 春のお大師様には、利用者様が作った毛糸のボンボンをお供えをし地域の人にお接待をした。 地域にある学校のスポーツ大会に利用者様の作った千羽鶴を届けて、とても喜ばれる。今後も続ける予定で、現在4千羽に挑んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 自己評価の内容は全員で考えて、評価に対して、ミーティング時確認し、改善に向けて検討し、実践につなげている。 (外部評価) 自己評価は職員全員で考えている。職員も普段行っていることを文章にすることで、今自分がしていることを振り返りきっかけになっていると話している。前回の評価結果等もミーティングで話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ゆいの家の課題、評価等を話し合い、意見を求めサービス向上に活かしている。もっと地域の方に認知症の理解をしていただく事が必須であると意見が出た為、地域にむけ講演会を開催し、大変な好評が得られた。今後も外部から見た視点での意見をもらいながら、サービスの向上に活かしていこうと思っています。 <hr/> (外部評価) 運営推進会議ではホームの課題などを話し合い、サービスの向上に努めている。会議では地域に向けて認知症の理解が必要との意見が出たため、ホーム主催で講演会を開催し、地域住民等約50名が参加し、大変好評であった。	※	今後はさらに、テーマによって参加メンバーを検討する、近隣の住民の参加を得るなど、会議がより活発で有効なものになるような取り組みを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から事業所の運営上の相談確認や現状の連絡等行っており、サービスの質の向上につなげている。 <hr/> (外部評価) 日頃より運営上のことなどに関して相談や確認などを行い、共にサービスの質の向上に努めている。また市にホーム便りを届けたりしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は研修会等へ参加し、学習しているので、権利擁護事業並びに成年後見制度については理解していると思う。権利擁護事業は社協に相談窓口を設けており、必要な人には活用できるように支援が出来る体制である。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は各種研修を受け、勉強の機会を設け、皆で話し合い、1人1人の状態把握をし、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に十分に説明し、理解を得ている。退居に至るまでは、家族様に意向を聞きながら不安等がないように努めている。又、家族様との交流を大切にしながら納得、理解が得られる体制を整えている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様1人1人何でも話せる雰囲気作りをしている。連絡ノート、申し送り等で全職員が情報の共有が出来るようにして対応を図っている。又、利用者様の言葉、表情、態度等から、気持ちの変化には特に気を配っている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 2ヶ月毎のお便り、ケアプランを送る時、又来所時の報告等で出来ている。必用に応じ電話連絡も行っている。 (外部評価) 2か月ごとに家族に対してホーム便りを送っている。あまり面会に来ることができない家族などに対しても電話で利用者の様子を報告したり、相談したりしている。家族の来訪時には職員から必ず声をかけ利用者の状況を伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常の気付き等変化があれば随時連絡をとり、意見等の伺いしながら運営に反映させている。又、苦情、相談窓口を設け意見の受け入れ準備ができています。 (外部評価) 日常生活において気になることがあれば、家族がホームに来たときや電話などで相談するようにしている。家族等の意見を、今後はさらに聞くことができるようにしていきたいと考えている。苦情、相談受付窓口も事業所内と第三者機関に分けて重要事項説明書に記載されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング時、全職員に意見、提案等出してもらい皆で協議しながら運営に反映させている。又、随時の意見も聴く態勢は整っている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員はその時々に応じた柔軟な対応が出来ている。日頃からそれらの内容を話し合い、理解、納得が得られている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 利用者様に対する職員のサービスは公平であり、誰にでも優しい対応が出来ているので、最小限の異動があっても利用者様に対して支障のないように配慮ができています。 (外部評価) 常勤よりも非常勤の割合が高いが、職員の異動はほとんどない。また運営法人の支部内での合同行事も多くあり、法人支部全体で馴染みの関係を作りあげている。また異動がある場合はホーム便りなどを通じて家族にも報告するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 順次研修の機会を設けミーティング時の研修報告で全職員が共有できるようにしている。事業所外の研修にはできるだけ多くの職員の受講機会を持つよう勧めている。 (外部評価) 運営法人にて新人研修を実施し、その後はグループホーム連絡協議会などの研修に段階に応じて参加している。研修の案内も事務所内に掲示し職員に周知している。また研修後はミーティングなどで報告し、研修内容を全職員が共有できるようにしている。		自主研修のチラシ等あれば、掲示して紹介している

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 定期的な研修会場での意見交換の機会は得られており、サービスの発展につなげている。		相互評価の機会は検討中である
			(外部評価) 隣接する同法人内のホームや近所のデイサービスとは交流があるが、まだ他の事業所とは積極的に交流をしていない状況である。グループホーム連絡協議会の研修会等に参加して意見交換などは行っている。	※	
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員の休憩室は確保されている。他事業所との親睦の機会を得ている等職員のストレス対策は出来ている。又、気軽に事業所長とも相談ができる体制が整っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をし、向上心を持ち続けられる職場であるように勤めている。職員が向上心を持って働けるように仕事の分担をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前の面談で家族様を交え生活の状態を話し合い安心感を持ってもらう。本人と話し合いの時間を多く持ち、よりよい関係作りができるよう心がけ、不安を取り除き、安心感を持ってもらうように努めている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事業所としてのサービスの内容、何処までのサービスが出来るか等をきちんと伝えている。家族様の意向を聴く話し合いの場を持ち、不安のない様になっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人様や家族様の思い、状況等の確認をし、今何が必用かを見極め、必要なサービスにつなげるようにしている。 例えば、他事業所への入居申請、通所介護、訪問介護、配食サービス等につないだ例もある。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になんげに馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族様の協力で通所の利用中何度かグループホームに遊びに来てもらいなじみを作り、本人の理解納得を得て入居に至る事もある。それ以外は、事前訪問や来所等で雰囲気になんげに慣れていただいている。家族様にたびたび足を運んでもらいながら徐々に慣れてもらうことも必用であれば行っている。 (外部評価) 近所のデイサービス利用中にホームに遊びに来てもらったり、利用開始前にホームに来て雰囲気になんげに慣れてもらったりしながら、入居に至っている。必要に応じて家族の協力を得ながら、徐々になじめるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 普段から利用者様に教えていただくという姿勢でかわりながら、そのような場面が多くもてるように工夫している。 (外部評価) 職員は基本的には利用者になんげに教えてもらうという姿勢で接しており、できるだけそういった場面を多く持ち、利用者が自信を持って積極的にいろいろなことをできるように工夫している。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の状態変化等、必要な内容の連絡をそのつど行う事で、家族様との協力関係が得られている。利用者様の情報の共有になんげに家族様と利用者様の関係性を理解し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人様の状態の報告、相談をこまめに行い、家族様との関係をよりよく保って行けるように、職員は潤滑油となるよう心がけ、本人の思いを伝えることも必用に応じ行い支援している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域に暮らすなじみの知人、友人等継続的な交流が出来るように働きかけている。地域の寺、神社等にはよく出かける。本人の行きつけの美容院へ行く支援もしている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員と個別で話したり、利用者様同士で談話したり、レクレーションを楽しんだり、野菜を刻む、皮をむく、煮干の準備等、他の利用者様との関わりが数多く持てる場面作りに努めている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 今まで係わっていた家族が行き場を失い、当ホームを尋ねて来られることが何度かあった。そのときは一緒にお茶を飲みながら穏やかな時間を過ごしていただいた。又、地域の行事に出かけていくと、協力が得られる事がよくある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 声掛けや関わりにより、表情、態度、言葉の観察から一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。困難者には家族を交え情報を得ることもある。 (外部評価) 日常生活の関わりあいの中から利用者の思いや希望を把握するように努めている。また家族などから情報を得るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人様や家族様からの聞き取りで生活歴を知るようにしている。 又、本人様との会話で情報を得ながらサービスの向上に努めるようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 1人1人の生活のリズムを大切に、その日の状態の観察把握に努め、その人の全体像から出来る事を見つけて支援していく。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) それまでの介護計画の評価とカンファレンスをチームで行う。本人様や家族様には、日頃から思いや意見を聞きながら、その思いを反映させるようにしている。 (外部評価) 利用者が望む普通の生活は何かということを考えながら、毎月行うモニタリングをもとに利用者や家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 介護計画の期間中定期的に評価を行い状態状況の変化に応じた見直しを行っている。家族様に報告、意向を伺って新たに計画を作成している。 (外部評価) 毎月行われるミーティングで利用者の状況について話し合い、現状の確認や意見交換を行っている。介護計画作成時には家族に確認してもらっている。また利用者の状況に応じて介護計画の見直しも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録で日々の暮らしに必要な情報を共有をし、評価、見直しを行い、実践や介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者様や家族様の要望に応じ、帰宅すること、デイサービス利用、地域の人との自由な交流、地域のボランティアさんの受け入れ等、柔軟な支援をしている。 (外部評価) 利用者、家族の希望に応じて外泊してもらったり、近隣のデイサービスや保健センターの利用なども行っている。また地域住民との自由な交流やボランティアとの交流など状況に応じて柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 各地域の民生委員さんとは常に連携をとっている。又、本人さんの意向に応じ、檀家の寺の行事に参加して説法を聴く、図書館の利用、学校、保育園等の交流等で様々な機関からの協力が得られ、充実した生活が送れるように支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人さんの意向で通所の習字教室、地域の花作り教室、保健センター利用やボランティアによるスポーツ教室等に参加して、生活の楽しみが持てるように支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 支所の保健師さんも運営推進委員になっていただき、包括支援センターとの協働を図っている。又、利用者様のケアマネジメントについても多方面から相談協力が得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 嘱託医による月2回の往診がある。必要な場合は、家族様や本人さんが決めている係りつけ医で適切な医療が受けられるように支援している。 (外部評価) 協力医療機関の医師による往診が月2回ある。また利用者が希望する病院を受診できる体制にしており、通院や受診は本人や家族の希望に応じて対応している。また隣接する保健センターや福祉センターの看護師にも気軽に相談できるような関係がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医の受診が必要になったら、家族様と相談して支所の精神障害者訪問指導担当保健師を通じて、専門医の診断治療が受けられる。月1度の訪問診療をしてもらっている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 嘱託医の看護師との連携、通所の看護師のアドバイス、意見を伺いながら日常の健康管理、医療活用の支援が出来ている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院に至っては、普段の状態で必要なことは伝えておき入院期間の予定は、家族様と事業所で医師から確認しておく。時折経過の確認をとり、出来るだけ早く退院できるように支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) できるだけ早い段階から本人様や家族様の意向を伺い、医師、事業所を含めて随時相談する。在宅で可能な場合は対応方針を皆で共有し、医師との連携をはかりながら支援している。 (外部評価) 重度化に伴う大まかな方針はホーム内で決めているが、できる限り利用者や家族の意思を尊重するようにしている。家族や医療機関だけでなく、職員間でも話し合いを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 常に家族様の意向を伺いながら医師、職員が連携を取り安心して納得して過せるように取り組んでいる。又、今後の変化に備えた準備は整っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) やむを得ず退去して他所へ移る時は、普段からの生活状況を細かく記録しているので、家族様の了解のもと情報提供ができるよう努めている。又、次の場所へ移っても同じサービスが受けられ同じ生活が続けられるよう情報交換に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) ミーティング時、職員の意識統一をはかると共に、日々の関わりのなかで1人1人の誇りやプライバシーを損ねることのない対応の徹底を図っている。 (外部評価) プライバシーを損ねることのないケアについて、日々のミーティングの中などで意識統一を図っている。昼食時やだんらんの中でも職員の利用者に対する言葉かけは丁寧であった。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 1人1人に合わせた声かけを行い、気持ちの確認を取りながら自己決定できるよう支援している。コミュニケーション困難者には表情、態度から推測しながら意思決定できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 1人1人のペースにあわせた声かけをして、できるだけその人の生活リズムを大切にしている。その日の状態、その時の気持ちに配慮しながら機能の維持に努めている。 (外部評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと一緒に時間を過ごす関わり方をしており、職員は利用者本人の視点に立ってそれぞれのペースに合わせることを徹底している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 1人1人の好みや習慣に合わせて毎日その人なりのおしゃれができるように支援している。行き付けの美容院への支援もしているが、ゆいの家で職員がカットしてくれるのを心待ちにしている利用者様もいる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の会話の中から利用者様の好みを把握し、献立に反映している。準備から片付けまで出来る事は一緒に行っている。 (外部評価) 食事の準備から片づけまで利用者と職員が協力して行っている。食材を刻んだり食器を洗ったりとそれぞれが自分の得意なことをしており、食事中もおしゃべりをしながら楽しそうに食事をしていた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 日頃からの会話の中で、利用者様の嗜好についてはだいたい把握している。お酒の好きな人には楽しめるだけの適量を提供し、1人1人の好みの物を提供できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 介助の必要な方の排泄パターンを記録し、1人1人の排泄リズムを把握している。トイレ介助でオムツ、パット等を出るだけ汚さないように支援している。又、清拭で清潔が保てるように支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 1人1人のその時の希望に応じて入浴支援している。基本的には2日に1回入浴する様になっているが、夏場は、毎日入れるように声掛け誘導して入浴を楽しめるように支援している。 (外部評価) 入浴は自由にできるような体制になっており、利用者の希望に応じて対応している。現在はないがリフト浴が必要な場合は隣接するデイサービスのリフト浴が利用できるようになっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 1人1人その日その時の状態に応じて休憩が取れるように声掛け支援をしている。睡眠状態の記録、夜間の状態等を申し送り確認している。夜間の水分補給、話し相手等で気持ちの安定をはかり、安心して休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 1人1人の役割が1日の中で随所にある。洗濯干し、たたむ人、食材刻み、食器洗い、拭く人、食器棚へ片付ける人等、自分の出来る能力に応じ分担している。季節に応じ切干大根、らっきょ作り等、皆で懐かしく談話しながら思い出話を花を咲かせることもある。晩酌の楽しみな利用者様には適度に楽しんでもらっている。 (外部評価) 洗濯干しや食事の手伝いなどホーム内の生活で利用者が役割を持って生活できるように支援している。職員もできるだけ手は出さずに利用者に教えてもらうという姿勢で支援している。また晩酌を希望する利用者には健康状態等を確認しながら適度に楽しんでもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は、利用者様がお金を持つ事の大切さを十分に理解しており、近所の店に買い物に行ったりしながら1人1人の希望や能力に応じた支援をしている。事業所で家族に小額のお金を預かり管理しているが、能力に応じ小額を持っている利用者様もいる。買い物、行事で出かけたときなどは、自分で支払えるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 買い物、散歩、保健センター等、できるだけ戸外に出るように心がけ、運動も兼ねながら気分転換できるよう支援している。 (外部評価) 買い物、散歩など利用者の希望に応じて外出するようにしている。隣接の保健センターの筋力トレーニングや福祉センターのデイサービスなどさまざまな形で外出支援を行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 四季折々に行ってみたいところの話をし、希望に応じ出かけられるように支援している。盆、正月等、帰宅して利用者様が少ない時などは、檀家のお寺にお参りの支援をする事がある。又、その他色々な行事には家族さんにご案内し、皆で楽しめる機会を作っている。もちろん地域のボランティアさんの協力も得られている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様が家族様に電話をしたい時は、職員がさりげなく取り次いでいる。年賀状は毎年可能な人には自筆で書いていただき、書けない人には職員が代筆し、返事が返ってくると読んで聞いてもらい安心感を持っていただいている。又、お便りの宛名書きも自筆で書ける方には書いてもらっている。誕生会の招待状を家族に送っている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) なじみの方の訪問があれば、居室や居間でお茶などを囲んで和やかに楽しい時間を過ごしてもらえるように心がけている。又、職員もたまには混じって盛り上げたりしながら居心地よいように工夫している。今後も皆が気軽に訪問出来るような明るい開かれたホームにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修、ケアカンファレンス等で職員全員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間は、居室や玄関だけでなく殆どの戸には鍵はかけておらず、自由な生活をしてもらっている。職員の見守り、目配りは徹底しているが、不意の外出時には福祉センターや近所の協力も得られている。 (外部評価) 夜間は鍵をかけるが、日中は施錠をせずに自由に生活してもらっている。外出しようとするときは職員がさりげなく声をかけたり、一緒についていたりしている。また気づかないうちに利用者が外出した場合も、近所の方や福祉センターとの協力関係があり、連絡してもらえる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) フロアでさりげなく見守りをしながら作業を進めている。 居室にいる利用者は声かけて様子の伺いをする。 夜間はだいたい2時間毎の見守りで安全の確認をとっている。トイレや入浴時には特にプライバシーの配慮をしている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 包丁、洗剤、薬品等は保管場所を決め管理しているが、その時1人1人の状態に応じた管理もしている。自分の持ち物でも突然区別がつかなくなるケースもあり、状態変化に応じた早めの対応ができる様、常に安全に心がけている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 1人1人の状態の把握が出来るように努めている。ヒヤリハットの記録をして、状況観察、記録、報告で検討会を持ち、リスク管理で再発の防止に努めている。定期的に避難訓練を実施(夜間を想定とした)し、連絡網の確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 1人1人の体調の管理で急変者への早めの気づき、対応が出来るようにしている。消防署員や日赤の講師による救急法、心配蘇生法は殆どの職員が毎年受講している。職場での緊急の対応方法はヒヤリハットの検討会の時に話し合っている。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 避難訓練を定期的に行っており避難経路の確認は取れている。災害時の避難場所は福祉センターとしている。普段から地域の方々の協力を得られる様に働きかけている。 (外部評価) 避難訓練は夜間想定も含めて職員と利用者が一緒に定期的に行っており、避難経路・場所の確認もできている。地域の住民とともに避難訓練等は実施していないが、日ごろより地域に対して災害時に協力が得られるように働きかけは行っている。来年からは地域の人とともに訓練等を実施しようと考えている。	※	災害発生時、特に夜間は職員が少ないため地域の協力が必要であり、地域や警察署、消防署などと連携を図りながら、地域を含めた避難訓練を行うことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 1人1人の状態の変化に応じて家族様に連絡し、起りうる恐れのある事等話し合い、事業所の取り組み内容を説明している。現在、徘徊者に対しては、家族様との話し合いの上で施錠をせずに見守り支援をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) バイタルチェック、表情、状態等で早めの変化に気づき対応している。日頃から1人1人の状態を把握するように心がけ、緊急時には嘱託医の協力が得られようとしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 1人1人の処方箋綴りで、薬の内容の理解が出来るようにしている。飲み忘れや、誤薬のないように準備した人、飲むのを見守りする人等、職員全員で支援している。飲んだ直後に変化や異常が現れたら、細かい観察、記録で、医療機関に連絡するように決めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェックの記録で排便リズムをつかみ、飲食物の工夫、運動等の働きかけで自然排便を試みている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の歯磨きは全員声掛け誘導で出来ているが、たまに拒否する事がある。入浴の時に準備して行ってもらうなど、その人の能力に応じた支援をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) カロリー計算、水分摂取量等、記録により管理し、栄養バランスを考えている。体重の増加気味な人には、摂取量やおやつ等で調節している。通所介護の栄養士の協力を得ている。 (外部評価) 食事・水分摂取量は記録している。水分摂取が特に必要な人も申し送りなどを活用して職員間で情報の共有をしている。また栄養バランスもデイサービスの栄養士に協力してもらいながら献立を考えている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防のマニュアル書を参考に実行している。夏場温度の高い時は刺身等の生物はなるべく避け、食べる時は直前に冷蔵庫から出すなど配慮している。外出から帰った後、トイレ後、食前等手洗いを励行している。インフルエンザ予防接種や風邪の時期はうがいを励行している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 買った時に日付記入し、賞味期限には十分注意している。生物はできるだけ新鮮な食材を使い、まな板の消毒は常時行っている。調理器具等の衛生管理にも十分に気をつけており、使う前には洗う、食材は使いきる等管理徹底している。又、冷蔵庫内の点検整理も常時行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 花壇にはいつも花が咲いているようにし、玄関の周りにも季節の花を鉢植えしている。ベンチを置いて気軽にひと休みできるようにもしている。気軽に出入りできるような雰囲気作りをし、中庭からも出入りが出来るようにしているので、知人が入って来られる事もある。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花がいつでもあるように、ボランティアさんもよく花を届けて飾って下さる。壁には季節が感じられるような工夫を施し、心地よい空間を作っている。ソファやベンチは利用者さんがくつろげるように様子を見ながら、配置にも気を配っている。 (外部評価) リビングは広く、随所に季節の花などが飾られている。また玄関口やリビング等にさりげなく利用者の作品も飾られている。リビングではいすやソファに座り思い思いに過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファやベンチ、畳み台の配置を工夫し、思い思いのところで談話したり、寝そべったり、作業をしたりできるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時、家で使い慣れた家具などを持ち込んでもらうことをお願いして、居室は自分の家と変わらないようにくつろげる場所、居心地よく過ごせる場所になるよう工夫している。 (外部評価) 利用者の居室には机・いす・ベットなどさまざまなものが持ち込まれている。花、家族と一緒の写真、手作り品、カレンダーなどが飾られており、利用者それぞれの生活ぶりがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 昼間利用者様がフロアにいる時は、換気のためできるだけ網戸にしている。外気温と室内温度との差が少ないように温度調節に常に気を配っている。又、1人1人の状況に応じた対応を心がけている。居室内、各廊下の隅に温度計を置いて管理している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各所に手すりを設置しているので、出来るだけフロア内は独歩でと思う利用者様の歩行の安全に役立っている。調理場の高さ、洗面所の高さも利用者様が使いやすいようになっており、自立を考慮した空間となっている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 1人1人の出来る事出来ない事を見極めて、野菜きり、皮むき、テーブル拭き等、個々に仕事を振り分けながら援助している。できる人には自立した入浴ができるように見守りを徹底しながら支援している。		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 夕方の夕涼みに外のベンチを利用したり、周辺の散歩をしたりしている。畑の野菜の収穫も楽しめる様にしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	訴えの出来る利用者様に対しては、本人の思いを出来るだけ聞きながら生活の楽しみ、充実感がもてるような支援をしている。訴えの出来ない利用者様に対しては、以前好きだった事、興味のあることなどをお聞きしながら表情等の反応を伺ったり、家族との話し合いなどで把握し支援している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	お茶の時間に、手づくりおやつなどで楽しい時間となるようにしている。居室にこもりがちな利用者様も交えて楽しく話したりしている。又夕食後のひとときにゆっくり会話を楽しむ利用者様もいる。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	朝食の時間差や居室で食べたいと希望があれば、希望を聴く様になっている。居室やフロアでの時間は自由であるが見守りや所在の確認は常に行なっている。ソファやベンチ、テーブルの椅子に座ったりと自分のペースで過ごされている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分の趣味や好きな事、例えば、習字をしたり、歌ったり、読書をしたり、新聞を読む等、1人1人に合わせた準備や支援を行う事で生き生きした表情をされている。台所や洗濯など気になる場所があり、それらをまかされたりする事で、生き生きとした表情が見られる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声掛けで出来るだけ戸外に出て気分転換を図るようにしている。1人1人の希望でデイサービスや保健センター、周辺の散歩、近くの店へ買い物に行ったりしている。近隣の方へ協力を呼びかけながら利用者様の安全確保に努めている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日の健康チェックで1人1人のその日の状態の把握をし、見守りや医療との連携によって不安なく過ごしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者様の1人1人の生活は自由であり、その時々状況や要望に応じ支援できるように配慮している。難しい要望等は話し合いをする事で気持ちが和んで気が紛れることもよくある。少しでも話す時間を持ち安心して過せるように支援をしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族さんの状況変化等の相談を受けた場合、家族さんの要望に出来るだけ耳を傾け、利用者様に不安感を感じさせないようにし、家族さんとの信頼関係を保つ様になっている。又、日ごろからいろいろな相談ができるような雰囲気作りに努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	デイサービスから知人友人が訪ねてきたり、地域から毎日のように家で取れた野菜や果物を持ってきてくれている。家族や近所の方等はよく来られている。一緒にお茶を囲みながら、ゆっくり話したりする事で、地域の人との絆を保てるようにしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の方の意見等により関係者とのつながりが広がり、事業所の理解者や応援者が増えているように思う。「認知症の正しい理解」の講演会や夏祭りを盛大に行い、地域の皆様から大変な好評が得られ喜んでいただけた。今後も地域の理解者がもっともっと増えるよう努めたい。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員の意見がくみあげられるような場をもうけるようにしている。又、利用者様を中心とした支援では、行動指針を共有しながら実践している。同じ目標に向かって活動できている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員を交えた話し合いでは利用者様はとても和やかな時間が持てている。いろいろな要望等あるが、話し合いで和む事が多い。昼間は居室にいる事が少なく作業等の声掛けには協力的である。家族様との連携が取れているので、利用者様はとても安心されている様子である。利用者様1人1人の思いを大切に、できる限り寄り添っていけるような支援に努めている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族さんへの連絡時にはいつも感謝されている。依頼ごとにも協力的である。事業所の方針等きちんと伝えていたので理解納得されている様子である。家族さんとの連携があって良い支援ができており、お互いに良い関係が築けている。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

利用者様の高齢化に伴い、身体機能の維持を図り、無理なく1人1人に合わせた運動等を取り入れている。利用者様の自由な意思を尊重し、会話をしながら楽しく過ごせるよう支援していきたい。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

0

評価完了日

平成 19 年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 利用者様の人格を尊重し、常に利用者様の立場に立ち、その人らしく暮らしていけるサービスを目標としている。職員全員で考えた指針を掲げ住み慣れた地域で安心した生活が送れるように支援している。 (外部評価) 職員全員で検討し作成した2つの理念を掲げ、利用者様がごく普通の生活をそれぞれのペースで送ってもらおうということを職員間でも意識統一できている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) ミーティング、申し送り等で理念を共有し、職員が意識して働いており、日々のサービスの提供の場面でも実践に向けて取り組んでいる。玄関にも指針を掲げ何時でも見えるようにしている (外部評価) 平成19年8月に理念の見直しを行い、ミーティング時には理念についての話し合いも行っている。まず身近な小さなことから理念の実践を進めていくように心がけている。		理念の共有と共に、2ヶ月毎に指針を掲げ目標にして日々取り組んでいる
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族様にお便りを出し、取り組みを報告し理解していただいている。地域の方には、推進委員会等で理解してもらうよう取り組んでいる。		二ヶ月毎に御便りを発行している

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 散歩に出かけたり、近隣の商店を利用したりと顔馴染みの関係作りをし、誰でも気軽に立ち寄って頂けるように明るく開かれたホーム作りに努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域のお祭りや行事に参加し、地域の人々と交流することに努めている。又、事業所としても地域に向けての夏祭りを開催し、好評を得ている。 (外部評価) 自治会等には加入していないが、地域から行事の誘いもありほぼ参加している。また近所の人などが毎日のように野菜などを届けてくれたりしている。また保育園、中学校、高校などとも定期的に交流を行っている。近くにある学校のスポーツ大会に利用者の作った千羽鶴を届けてとても喜ばれている。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 事業所において、「認知症の正しい理解」と題した学習会を開き、地域の方に認知症を理解して頂けるように、取り組んでいる。		
3. 理念を实践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を形式的な作業におおわせず、前向きに取り組む職員全体で理解し、サービスの質の向上に努めている。 (外部評価) 自己評価は職員全員で考えている。職員も普段行っていることを文章にすることで、今自分がしていることを振り返るきっかけになっていると話している。前回の評価結果等もミーティングで話し合い、実践に向けて取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 会議では、地域の理解と支援が得られるよう率直な意見を提案していただき、具体的に取り組み、サービスの向上に活かしている。現在の状況及びないようについても報告している。		
			(外部評価) 運営推進会議ではホームの課題などを話し合い、サービスの向上に努めている。会議では地域に向けて認知症の理解が必要との意見が出たため、ホーム主催で講演会を開催し、地域住民等約50名が参加し、大変好評であった。	※	今後はさらに、テーマによって参加メンバーを検討する、近隣の住民の参加を得るなど、会議がより活発で有効なものになるような取り組みを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 日頃から事業所の運営上の相談及び確認、現状の連絡等行っており、サービスの質の向上につなげている。		
			(外部評価) 日頃より運営上のことなどに関して相談や確認などを行い、共にサービスの質の向上に努めている。また市にホーム便りを届けたりしている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 職員は権利擁護の研修にも参加し、ミーティング等で報告し、皆で学習している。必要な人には活用できるよう支援体制が整っている。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者、職員は高齢者虐待防止についての研修会に参加し、ミーティング等で話し合い虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に、事業所の方針やサービスの取り組み状況などを重要事項説明書等で説明している。それについて質問や意見を出していただき、十分な話し合いによって理解・納得を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者さんも運営推進会議に参加して頂き、意見を出す機会を作っている。利用者さんの意見や態度からその思いをさっし、利用者さんの不安が無いように職員全員で情報を共有している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 2ヶ月に1度のお便りに、写真を同封したり、個々に合わせた報告をしている。金銭管理についても、出納帳に記入し、家族さんに確認のサインを貰っている。必要に応じ連絡も行っている。 <hr/> (外部評価) 2か月ごとに家族に対してホーム便りを送っている。あまり面会に来ることができない家族などに対しても電話で利用者の様子を報告したり、相談したりしている。家族の来訪時には職員から必ず声をかけ利用者の状況を伝えている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族さんには、お便りや電話で常に連絡をとり、気軽に意見などを出していただけるような関係作りに努めている。意見や要望はミーティングで話し合い運営に反映させている。又、苦情、相談窓口を設け意見の受け入れ準備ができています。 <hr/> (外部評価) 日常生活において気になることがあれば、家族がホームに来たときや電話などで相談するようにしている。家族等の意見を、今後はさらに聞くことができるようにしていきたいと考えている。苦情、相談受付窓口も事業所内と第三者機関に分けて重要事項説明書に記載されている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で、職員の意見や要望を出してもらい、皆で協議しながら運営に反映させている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 勤務シフト上も無理の無い勤務に工夫しており、その時々に応じた柔軟な対応ができている。又、必要な時間帯に職員が確保できるよう日頃から話し合い、理解が得られている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員は介護職としての意識を持ち、利用者さんに教えていただく気持ちで接している。、最小限の異動があったとしても、誰でも同じケアができるので、利用者さんに対して支障のないように配慮ができている。 (外部評価) 常勤よりも非常勤の割合が高いが、職員の異動はほとんどない。また運営法人の支部内での合同行事も多くあり、法人支部全体で馴染みの関係を作りあげている。また異動がある場合はホーム便りなどを通じて家族にも報告するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) パート職員にもスタッフの一員として、研修に参加できる機会を随時与えている。研修内容もミーティングで報告し、全職員が共有できるようにしている。 (外部評価) 運営法人にて新人研修を実施し、その後はグループホーム連絡協議会などの研修に段階に応じて参加している。研修の案内も事務所内に掲示し職員に周知している。また研修後はミーティングなどで報告し、研修内容を全職員が共有できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 定期的な連絡協議会にも積極的に参加し、学習会にも出席し事例検討等を通じて、サービスの向上に努めている。		
			(外部評価) 隣接する同法人内のホームや近所のデイサービスとは交流があるが、まだ他の事業所とは積極的に交流をしていない状況である。グループホーム連絡協議会の研修会等に参加して意見交換などは行っている。	※	他の事業所との交流を深め、意見交換や相互交流を行うことでサービスの質の向上につながっていくと思われるので、立地的な条件で難しい面もあるが、グループホームも含め他の法人・事業所との交流を積極的に図ることを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 休憩室を設け休憩場所を確保している。ストレスがたまらないような勤務体制としている。又、他事業所との親睦の機会を得ている等職員のストレス対策は整っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の資格取得に向けた支援をし、向上心を持ちつづけられる職場であるように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前面接で生活状態を把握するよう勤め、本人の思いや、不安を受け止め、信頼関係を作る事に心がけている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 家族さんが今何に困っているか、何を望んでいるか、又、何を不安に思っているかをよく聴きながら、信頼関係が築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人さん、家族さんの思い、状況等の確認を行い、今何が必用であるかを見極め、必用なサービスにつなげられる様にしている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 段階的に通所サービスや訪問サービスを利用してもらっています。入所決定時には事前に遊びに来てもらい、職員や他の利用者様と馴染みの関係作りをし、安心感を持っていただいている。 (外部評価) 近所のデイサービス利用中にホームに遊びに来てもらったり、利用開始前にホームに来て雰囲気に慣れてもらったりしながら、入居に至っている。必要に応じて家族の協力を得ながら、徐々になじめるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事を一緒に作ったり、野菜作り等をするなかで、その人その人の経験を活かした力を発揮してもらっている。日頃から人生の先輩であるという意識をもって接し、支え合う関係を築いている。 (外部評価) 職員は基本的には利用者に教えてもらうという姿勢で接しており、できるだけそういった場面を多く持ち、利用者が自信を持って積極的にいろいろなことをできるように工夫している。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様の状態変化、必要な内容等の連絡を密に取ることで、家族様との協力関係が得られている。利用者様の情報の共有に努め、家族様と利用者様の関係を理解し、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 誕生会や行事に誘ったり、本人と家族のより良い関係が作れるような場面を数多く作っている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの美容院に行ったり、できる限り継続的な関係が続くように支援している。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 食事の時間やおやつ時間も一緒に居て、多くの会話をしながら職員や利用者様同士の関係を活かす配慮をしています。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) サービス利用が終了しても、地域住民として関わりあえる関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 普段の会話の中から、表情や態度を観察しながら一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。 困難な場合は、家族様を交え情報を得ることもある。 (外部評価) 日常生活の関わりあいの中から利用者の思いや希望を把握するように努めている。また家族などから情報を得るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーへの配慮もしながら、本人さんや家族さんから情報を得、本人の全体像や生活歴を知るようにしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 1日のチェック表を作成し、一人ひとりの生活のリズムを把握し理解している。部分的な問題に捕らわれず総合的に把握し、その人その人の持っている力を日常生活の中から発見していくように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族様が訪問されたときや電話等で、思いや意見を聞き反映させている。気づきや意見、要望はモニタリング、カンファレンスを通して介護計画に反映させている。 (外部評価) 利用者が望む普通の生活は何かということを考えながら、毎月行うモニタリングをもとに利用者や家族の意見を取り入れた介護計画を作成している。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 月に1度カンファレンスを行い、状態や状況の変化に応じた見直しを行っている。 家族様にも意見を伺いながら新たに計画を作成している。 (外部評価) 毎月行われるミーティングで利用者の状況について話し合い、現状の確認や意見交換を行っている。介護計画作成時には家族に確認してもらっている。また利用者の状況に応じて介護計画の見直しも行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録で、日々の暮らしに必要な情報を共有し、評価、見直しを行い、実践や介護計画に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 利用者と家族が安心して暮らし続けるために、事業所としてデイサービスや個々が満足するように多機能性を生かしていきたい (外部評価) 利用者、家族の希望に応じて外泊してもらったり、近隣のデイサービスや保健センターの利用なども行っている。また地域住民との自由な交流やボランティアとの交流など状況に応じて柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 民生委員さんやボランティアさんの定期的な訪問等、各方面からの協力が得られ、充実した日常生活が送れるよう支援している。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望により保健センターに行き リハビリやマッサージ機にかったり、図書館にも行ったりしながら、生活の楽しみが持てるように支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 支所の保健師さんも運営推進委員になっていただき、包括支援センターと協働を図っている。又、利用者様のケアマネジメントについても多方面から相談協力が得られている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人さんと家族さんが決めているかかりつけ医への通院は、できるだけ家族さんをお願いしているが、不可能な時、緊急の時は職員が同行している。 <hr/> (外部評価) 協力医療機関の医師による往診が月2回ある。また利用者が希望する病院を受診できる体制にしており、通院や受診は本人や家族の希望に応じて対応している。また隣接する保健センターや福祉センターの看護師にも気軽に相談できるような関係がある。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 専門医の受診が必要になれば、家族様と相談の上、支所の保健師を通じて、専門医の診断治療が受けられる。又、月1度の専門医の訪問があり、相談や診断をして貰っている。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員を配置しており、利用者様の健康管理には常に気を配っている。医療が必要な場合は、早急に受診ができるよう支援している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院先が嘱託医の病院であることが多く、医師は十分に理解してくれているので、家族さんも交えて早期退院に向けて常に情報交換し、できるだけ早く退院できるように支援している。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時家族様には事業所の方針を説明しており、状況の変化に応じて医療機関、家族様と相談をし、連携を図りながら支援している。 <hr/> (外部評価) 重度化に伴う大まかな方針はホーム内で決めているが、できる限り利用者や家族の意思を尊重するようにしている。家族や医療機関だけでなく、職員間でも話し合いを持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 家族様や本人さんの意向を伺いながら、職員や医師が連携を取り、安心して暮らせるよう取り組んでいる。又、今後の変化に備えた準備は整っている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) やむを得ず他の事業所に移る場合、皆で十分な情報交換をし、同じような生活が存続できるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人一人の人格を尊重し、誇りを傷つけない様言葉掛けに配慮し、利用者様の理解し易い言葉掛けを常に心がけ、知り得た個人情報は丁寧に扱うよう徹底している。 (外部評価) プライバシーを損ねることのないケアについて、日々のミーティングの中などで意識統一を図っている。昼食時やだんらんの中でも職員の利用者に対する言葉かけは丁寧であった。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) その人とその人に合わせた声かけを行い、そのひとの気持ちを汲み取りながら自己決定できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ゆったりとした時間の流れの中で、その人らしく暮らせる様利用者様の希望に添った支援をしている。又、職員の都合を押し付けないようこころがけている。 (外部評価) 利用者一人ひとりのペースに合わせてゆっくりと一緒に時間を過ごす関わり方をしており、職員は利用者本人の視点に立ってそれぞれのペースに合わせることを徹底している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) さりげなく衣服の準備や組み合わせの声掛け支援をしている。いきつけの美容院にも要望があれば送迎している。お祭時にはお化粧の要望があれば支援している。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常の会話の中から利用者様の好みを把握し、献立に反映している。職員2人が、食事を共にして混乱する事なく、楽しく食事ができるようにしている。調理や片付けもそのひとの能力に合わせて、一緒に行っている。 (外部評価) 食事の準備から片づけまで利用者と職員が協力して行っている。食材を刻んだり食器を洗ったりとそれぞれが自分の得意なことをしており、食事中もおしゃべりをしながら楽しそうに食事をしていた。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者様と一緒に買い物に行った時、本人様の好みのお菓子等を買えるように支援している。又、状況に応じ、日常的に楽しめるようにもしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック記録を使用し、一人一人の力や排泄のパターンを把握し、気持ちよく排泄できる様支援している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 一人一人の希望やタイミングに合わせた入浴支援は十分ではないが、出来る限り満足出来るようにしている。入浴時には羞恥心にも十分配慮し、楽しく入浴できるよう支援している。 (外部評価) 入浴は自由にできるような体制になっており、利用者の希望に応じて対応している。現在はないがリフト浴が必要な場合は隣接するデイサービスのリフト浴が利用できるようになっている。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりその時の状態に応じて休息がとれるように声かけ支援している。利用者様一人一人の睡眠パターンを把握し、昼間の活動で生活のリズムを整えながら、落ち着いて安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 日常生活の中での洗濯や花壇の手入れ、野菜作り等を一緒に行うことで、何をすればその人の役割や楽しみが得られるのかを把握し、その人その人の状態に合った生活を支援している。 (外部評価) 洗濯干しや食事の手伝いなどホーム内の生活で利用者が役割を持って生活できるように支援している。職員もできるだけ手は出さずに利用者に教えてもらうという姿勢で支援している。また晩酌を希望する利用者には健康状態等を確認しながら適度に楽しんでもらうこともある。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は利用者様がお金を持つことの大切さを十分に理解している。管理能力に欠けている利用者様は、家族様の承諾を得て小額の金銭管理をしている。買い物などでは、利用者様に小額を所持して貰い本人が支払えるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 気分転換やストレスの発散、五感刺激の機会として散歩や商店への買い物、保健センターの利用等、運動も兼ねながら、できるだけ戸外に出かけるように心がけている。 (外部評価) 買い物、散歩など利用者の希望に応じて外出するようにしている。隣接の保健センターの筋力トレーニングや福祉センターのデイサービスなどさまざまな形で外出支援を行っている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 外出の計画を立て、職員勤務を調節するなどし、初詣やお花見、お祭りなどの外出支援をしている。家族様にも連絡を取りながら、協力をお願いすることもある。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族様が遠方に在住している場合は、利用者様は家族様と会う機会がなく、電話で声を聞きたい場合は職員がさりげなく取り次いでいる。又、ゆいの家便りをご家族へ送付する時、職員がお手伝いしながら手紙を書いていたとき同封し送付している。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) なじみの方の訪問があれば、居室や居間でお茶などを囲んで和やかで楽しい時間を過ごしてもらえよう心がけている。今後も皆が気軽に訪問できるような明るい開かれたホームにしていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修、ケアカンファレンス等で職員全員が正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中居室や玄関には鍵はかけず、何時でも出られるようにしている。近所の人にも協力して頂いている。外出願望がある時は、止めるのではなくさりげなく一緒について行き、安全面に配慮している。 (外部評価) 夜間は鍵をかけるが、日中は施錠をせずに自由に生活してもらっている。外出しようとするときは職員がさりげなく声をかけたり、一緒についていたりしている。また気づかないうちに利用者が外出した場合も、近所の方や福祉センターとの協力関係があり、連絡してもらえる。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 日中はさりげなく見守りをしながら利用者様の様子を把握している。夜間も2時間毎の巡回見守りで安全の確認を取っている。職員は利用者様のプライバシーに配慮しながら見守り支援している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 利用者様の状況に合わせ、注意が必要な物品は何かを把握し、保管管理が必要な物と、利用者様が使う時に注意が必要な物とに分けて管理している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 日々のヒヤリハットを記録し、職員の共通認識を図っている。万が一事故が発生した場合は速やかに対応し、事故報告書を作成するとともに、今後の予防対策について十分に検討している。又、避難訓練は定期的に行っており、連絡網の確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署員や日赤講師による救急法、心配蘇生法の研修を定期的に受講し、緊急時に迅速に対応できるよう訓練している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) マニュアルを作成し、避難訓練を定期的に行っており、避難経路の確認は取れている。普段から地域の方の協力が得られる様働きかけている。 (外部評価) 避難訓練は夜間想定も含めて職員と利用者が一緒に定期的に行っており、避難経路・場所の確認もできている。地域の住民とともに避難訓練等は実施していないが、日ごろより地域に対して災害時に協力が得られるように働きかけは行っている。来年からは地域の人とともに訓練等を実施しようと考えている。	※	災害発生時、特に夜間は職員が少ないため地域の協力が必要であり、地域や警察署、消防署などと連携を図りながら、地域を含めた避難訓練を行うことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 自由な生活にはリスクが伴うので、一人一人に起こり得るリスクについて職員全員で共通認識を持ち、家族様とも十分に話し合いながら穏かな生活ができるよう支援している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日のバイタルチェックにより普段の状況を把握しており、食欲や顔色、様子の変化も見逃さない様、早期発見に取り組み、変化時の記録もつけている。状況により嘱託医の協力が得られるようにしている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は利用者の病状を把握しており、服薬の支援をしている。変化時には記録をとり主治医の指示に従っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防に向けて繊維質の食材を取り入れている。散歩、家事、作業等、身体を動かす機会をつくって自然排便できる様取り組んでいる。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を職員全員が理解し、毎食後個々の力に応じて歯磨きや義歯のお手入れの支援をしている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量をチェックし、カロリーの過不足や偏りがなく必要な食事や水分がとれるように支援している。病気等で普通の食事が食べられなかったり、食べる行為が分からなくなっても、タイミングや介助の工夫をし、習慣に応じた支援をしている。 (外部評価) 食事・水分摂取量は記録している。水分摂取が特に必要な人も申し送りなどを活用して職員間で情報の共有をしている。また栄養バランスもデイサービスの栄養士に協力してもらいながら献立を考えている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 事業所内で起こり得る感染症について感染予防マニュアル書を参考に学習している。職員、利用者の手洗いが徹底、インフルエンザ予防接種も同意の上受けている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板や布巾は漂白し清潔に心掛け、調理器具の熱風消毒など台所の清潔管理に努めている。食材の残りの点検も頻繁に行ない、常に新鮮な食材を使用するよう管理に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 地域の方から頂いた花の苗が玄関先、中庭に咲いているため気軽に地域の方も訪ねて来てくれている。又 玄関先には ベンチを置き、誰でも気軽に交流できるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共用の空間である和室は何時でも休める様になっている。玄関や洗面所には季節の生花を飾り、季節を感じながら心地よく過ごせるように工夫している。 (外部評価) リビングは広く、随所に季節の花などが飾られている。また玄関口やリビング等にさりげなく利用者の作品も飾られている。リビングではいすやソファに座り思い思いに過ごしている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや長いすの配置を工夫し、思い思いのところで談話したり、横になったり、作業したりできるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時、使い慣れたベッドやタンスを持ち込んで貰っている。その他、家族の写真や使い慣れた時計なども持ってきていただき、自分の家と変わらないような心地良さに配慮している。 (外部評価) 利用者の居室には机・いす・ベットなどさまざまなものが持ち込まれている。花、家族と一緒にの写真、手作り品、カレンダーなどが飾られており、利用者それぞれの生活ぶりがうかがえる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓の開閉、換気扇、扇風機等を使い、空気の淀みや気になる匂いが無いよう努めている。温度調節は3ヶ所に設置した温度計と利用者様の様子を伺いながら調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 屋内はバリアフリーになっているが、居室前でスリッパを脱ぐ時危険な為、手すりを取り付けている。他にも各所に手すりを設置し、安全面に配慮している。又、本人さんの状態に応じて車椅子や歩行器も種類を変えて使用し、自立へ向けて支援している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 混乱を招く様な原因に対して、分かりやすく表示したり、居室にも大きく名前を表示するなどし、利用者様が認識しやすいように環境を整えている。又、状況が変わったらそのつど職員皆で話し合い、不安材料を取り除きその人らしく暮らせるように工夫している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 中庭の花壇では花や野菜を栽培し、草引きや水遣りを行っている。菜園で出来た野菜の収穫を楽しみにしている。中庭では車椅子の移動も可能で、ベンチも置き日常的に楽しめる様にしている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	共に暮らしていく中で、話に耳を傾け思いを聴くようにし、出来る限りの支援をしている
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	食事やおやつ等は皆でゆっくりするようにこころがけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	居室は一人部屋なのでその人にあったペースで生活している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	混乱を招きそうな場面では早めの対応をすることで笑顔が見られ生き生きと生活が出来ている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出願望、帰宅願望などその時すぐに対応してあげることができない時もある。その時は散歩に誘い気持ちを和ませている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェック、嘱託医の受診があり皆不安無く過ごしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員全体で話合い状況に応じた対応が出来るようにしている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	訪問や電話で聞いた事は職員皆で話し合い、信頼関係の構築に努めている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	隣の畑の人が野菜を持って来てくれたり、散歩の途中で寄って来てくれたりしている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	夏まつりの時には応援してもらったり、事業所への理解も深まり応援者が増えてきました。
98	職員は、生き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いつも職員は笑顔で生き生きと働いている、勤務の配慮もしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	混乱することも少なく、笑顔もよく楽しく生活ができていると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	近くに居られるご家族には随時連絡しながら来所して頂いています。遠方のご家族にはお便りなどを送付し、電話連絡を行っています。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

建物の周りには花壇があり、少しだけ菜園もあります。入居前には農業をされていた人が多く、自分から草を引きに出られたりしています。そういった気持ちを大切にしているのも、窓はいつも出入りできるよう開放しています。近くにはデイサービスや保健センターがあり、ほぼ毎日リハビリやマッサージ機にかかっています。歩行困難な利用者様にも車椅子で行って貰い、出来るかぎりの支援をし、利用者様皆が同じサービスが受けられるように支援しています。地域のお祭りや行事には積極的に参加し、普段一人では行けない所へも皆でかけています。皆の